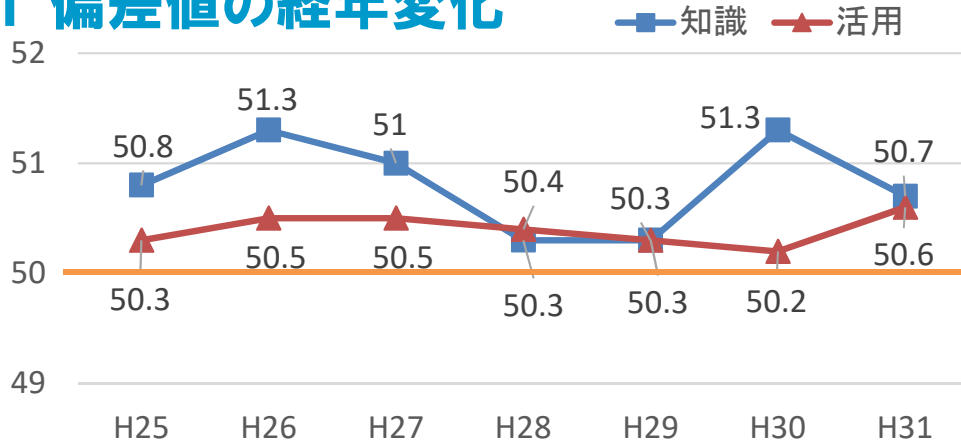


結果のポイント

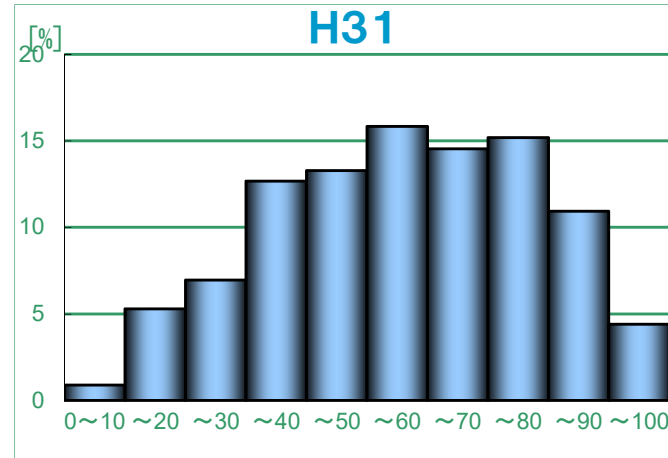
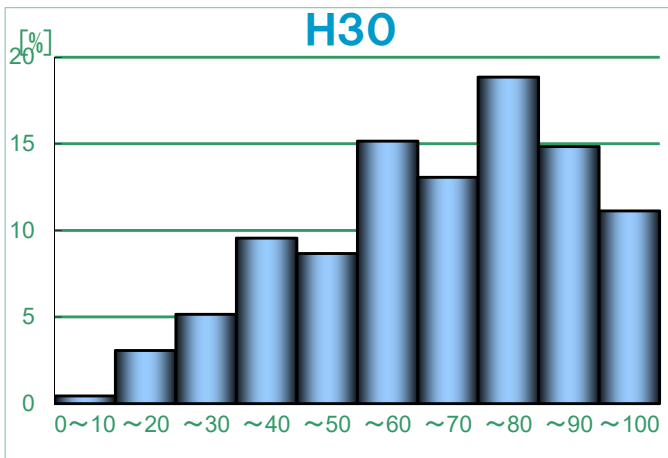
1 偏差値の経年変化



○活用がH30から0.4P伸び、これまでで一番高い数値である。

▲知識も偏差値50を超えたものの、H30に比べて0.6P下がった。

4 正答率度数分布の変化



2 領域別の結果

領域	正答率	目標値	偏差値
数と式	70.0	65.7	50.8
図形	57.4	56.4	50.4
関数	40.4	39.3	50.3
資料の活用	47.0	43.3	51.0

○全ての領域で偏差値50を上回っており、全国並の定着が図られている。

○「資料の活用」の偏差値が0.4P伸びた。

3 観点別の結果

観点	正答率	目標値	偏差値
数学的な見方や考え方	43.2	43.7	50.6
数学的な技能	60.0	56.8	50.6
数量や図形などについての知識・理解	56.9	53.2	50.9

○全ての観点において偏差値50を上回っており、バランスよく力がついている。

▲数学的な見方や考え方は偏差値50を上回ったものの、目標値を0.5P下回った。

▲正答率31~50%以下の層が増加している。

■ 課題が見られた問題と指導の改善

1 正答率が低かった問題

大問7(正答率17.9%・目標値30.0%)

関数についての知識理解を測る問題

▲関数関係の意味の理解。

大問12(正答率18.2%・目標値30.0%)

三角形の面積を2等分する直線を作図する問題。

▲角の二等分線、垂直二等分線の作図の方法や性質についての理解。

指導の改善

- 二つの数量の関係について、「…は…の関数である」などの表現を用いて捉え、変化や対応の様子に注目して関数関係についての意味を理解できるように指導する。
- 作図の方法を一方向的に与えるのではなく、平面図形の対称性に着目することで、図形の性質を根拠にしながら作図方法を見いだす活動を仕組む。

2 無解答率が高かった問題

大問16(2)(正答率11.5%・無解答率47.7%)

与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明する問題

与えられた式に値を代入して、 y の値が20であるときの x の値を求めることを説明している。	3.8 (正答)
y の値が20であるときの x の値を求めることの記述が十分ではないが、与えられた式に値を代入して求めることを説明している。	7.7 (正答)
無解答	47.7

指導の改善

- おうぎ形の中心角を求める方法について、与えられた関係式を「用いるもの」として明確にさせ、どのように用いればよいかを検討する場面を設定する。
- 「用い方」として、「与えられた式に $y=20$ を代入し、そのときの x の値を求める」などと数学的な表現を用いて説明できるように指導する。